

郷土の歴史を  
新得町郷土研究会が  
ご紹介しませう  
一緒に  
歴史の散歩に  
出かけましょう

しんとく  
しん歩  
しん散

No.14

新得小学校林地

新得町内で医院を開業していた仲田市太郎は、地域子孫百年後の隆盛を祈願して大正13(1924)年3月、字新得西4線50番地の造林地5畝を新得小学校の学校林として町に寄贈しました。

その後、この学校林を含む広内地区は、町が誘致した北海道農業試験場畜産部(現道立総合研究機構畜産試験場)の用地になるため、代替え地として北新内の町有林が充てられました。

ここに紹介する新得小学校林地の碑は、学校林が移転したことを後世に伝えていくため昭和56(1981)年10月4日、仲田市太郎の遺族の寄付を受けて新得町が現在地に建立しました。

仲田市太郎は千葉県出身の医師で、大正8(1919)年に新得町で仲田医院を開業しました。診療の傍ら、新得の山林が伐採され



新得小学校林地 (2009.9.17 撮影)

ていることを憂い、私費を投じて土地を購入し、カラマツの苗木を育て植樹に励みました。小中学校神社、寺院などには苗木や植樹林を寄贈し、広く木の大切さや植樹の必要性を説いたといわれています。

当時町内には、豊富な森林資源があるため、植林はあまり顧みられることはありませんでした。こうした中で仲田医師の植林は、新得町の植林事業の先駆けになると共に、林業振興に大きな功績を残すものでした。

石碑の裏には、仲田医師が林地を寄贈するに当たってその活用法の希望を記した「造林地寄附一関スル希望」の文章が原文のまま模写されています。

その後平成19(2007)年に、仲田医師の遺族が、石碑を近くから見られるようにと階段を設置しました。

町長室から  
こんにちは

新得町長 浜田正利

最近の話題から期待する事と不安な事を二点お知らせします。

一点目は、昭和63年6月に「そば焼酎」がきっかけで姉妹町盟約を結んだ宮崎県五ヶ瀬町の町制施行60周年事業が10月15日に行われ出席してきました。盟約締結後、小中学生の相互交流を中心に人的交流が進められてきましたが、今回、当時の子供たちが五ヶ瀬町に残り、まちづくりに頑張っている方、五ヶ瀬町職員の方に新得町に来たことがある方などと、お話をする機会に恵まれました。初めてお会いした方もおりましたが、全員が昔からの知り合いのような感じで、不思議な雰囲気を感じてきました。また、前日の夕方に五ヶ瀬町役場に到着した際に、五ヶ瀬中学校生徒会、社会福祉協議会、議会議員互助会、職員互助会から台風被害に對してお見舞いをいただきました。五ヶ瀬町民の温かい心遣いに心からお礼を述べてきました。北と南の小さな自治体ですが、これからも交流を続けながら自然な心遣いが互いに来るよ



う、期待をしています。

二点目は、J R北海道の鉄路のことです。新聞報道では「単独では維持困難な線区」を公表し、地域とともに鉄路をどうしていくのかを協議をする予定といわれています。これまでに留萌線の一部、夕張・新夕張間、日高線など具体的な動きが出てきていますが、最近では新得・富良野間についても報道されています。町長として、鉄路の在り方を沿線自治体だけで協議を進めても解決できないので、北海道全体の公共交通はどうあるべきかをきちんと整理し、北海道として対応すべきと発言してきました。新得町は、明治40年に鉄道が開通以来、「鉄道の町」として歩んできたと自負していますが、今後の動向に不安を感じています。また、口答ではありますが、J R石勝線の復旧については、遅くとも12月20日までは開通するよう要望しています。

台風10号の被害から2ヵ月が過ぎましたが、これまでに、安倍総理を初め関係大臣などの政府関係者、中川代議士を始め各政党関係者、高橋北海道知事など大変多くの皆さんが被災地である十勝地方並びに新得町に視察にお越しただくとともに復旧・復興について、地元の見解を聞いていただきました。新得町においては国・北海道のスピード感のある対応をいただいたと感じている一方、今後の対応にあたって不透明な部分も多くあり、歯がゆさもあります。これからも前に進むための大きな力になっていただけると考えておりますし、行政としてもこれまで同様力を入れていきます。

広報モニターからの声

広報モニターさんから「広報しんとく9月号」を読んだ感想・ご意見をいただきましたので、その内容をお知らせします。

▼災害時の情報伝達で最も早く情報量が多かったのが、SNS(私の場合Facebook)でした。しかし、間違った情報が流れることもあり、人から人への情報伝達は確実とは言えません。重要な情報はホームページや給水所で役場の方から伺いました。確かに掲示板は見づらく見落としもありましたが、緊急時のことですので表記などに問題があったとも思いません。日頃から確実に情報を入手するために様々な経路を確保するのも「自助」だと思います。

▼町の台所事情では、一般家庭の家計簿に置き換えられており、とてもわかりやすかったと思います。家庭と税は必ずしもイコールではないにしろ「自分たちで用意したお金」よりも「親からの援助」が多く黒字とは言え考え直すところだと思います。新得町の基盤を強固にするためにも、自分たちの足で立つ意識を町民一人ひとりが意識していければと思います。また、細かいデータを要点を絞って解説しており、とても読みやすかったです。直接関わるものがなくとも、このような形で町の状況を把握できるのは素晴らしいと思います。

短歌

新得短歌会

- 寒露過ぎ夜空彩る散声に  
復興花火力宿りて  
小野 恭子
- 二十七八紅葉の錦を背景に  
アルバム写真優倅の一片  
樋口かおり
- 神鳴の音ひびき来る晩秋の  
庭の黄葉はさもなく散りぬ  
奇藤美代子
- なかなかに見られぬ歌舞伎の縁もて  
心奮ひて海老蔵氏を親む  
小野 洋子
- 菊競い共演見らる雪近き  
季を迎えて吾れ老いてたり  
小関 白潮
- 踊る雲澄む空時雨虹そびえ  
走る足止め希望を託す  
岡田御狸裸
- 時くらば当然のように萩だれの  
濁流の跡見つめばかりに  
中井由利子
- 旅枕なじみの毛氈が恋しくて  
同じ模様を描を採しつ  
樋口 智一

俳句

新得俳句同好会

- 逝く友に黄菊一輪手向けけり  
片桐 波月
- 気が付けば虫の音聞かず秋いかな  
月井 愁峰
- 秋祭り天狗の鼻もふと折れる  
高橋 民女
- 工事場のクレインの高し秋の空  
八木 育子
- さまざまな足音弾く草もみじ  
大崎かずお
- 徒然の友去り淋し萩の花  
奇藤 青苔
- 秋深し老いのステック米寿まで  
渡辺アヤ子
- エゴマ刈る高山にはや雪被る  
袴田ゆき男
- 秋夕統一抜け二抜け鬼帰る  
中島 土方

ひびくと手話講座

～No.27～

○電話



右手の親指と小指を伸ばし、親指を耳に小指をあごにあてる

○メール



右手の親指と人差し指の先をくっつけて円(指文字「め」の形)をつくり、前後に往復させる